

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2025年7月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2025年7月11日～7月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 137社
- 回収率 68.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がり进行を意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の7月の状況を見ると業況DIは、前月より6.5ポイント悪化の▲18.2となった。

2017年9月以来95ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3カ月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲17.5、当月と比べ0.7ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2025年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2025年8月～ 2025年10月
業況	▲21.2	▲15.5	▲14.2	▲17.3	▲11.7	▲18.2	▲17.5
売上	▲7.6	▲3.9	3.7	0.8	7.1	▲3.7	▲8.8
採算	▲27.3	▲17.8	▲15.7	▲18.8	▲11.0	▲16.1	▲14.6
仕入単価	▲62.1	▲64.3	▲70.2	▲56.4	▲56.3	▲58.4	▲55.5
販売単価	26.5	37.2	29.1	24.1	30.4	28.5	22.7
従業員	32.6	28.7	36.6	33.8	32.1	29.9	32.1
資金繰り	▲13.6	▲8.6	▲8.2	▲11.3	▲9.4	▲10.9	▲11.7

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2025年 2月	3月	4月	5月	6月	7月	先行き見通し 2025年8月～ 2025年10月
建設	▲34.4	▲30.0	▲29.0	▲21.2	▲10.3	▲19.3	▲22.6
製造	▲32.4	▲9.4	▲16.7	▲24.2	▲10.0	▲23.4	▲16.7
卸売	▲7.4	▲14.3	0.0	▲7.4	▲7.4	▲15.7	▲6.3
小売	▲38.9	▲25.0	▲26.3	▲36.8	▲38.9	▲35.0	▲35.0
サービス	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	▲12.5

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	・材料費の高騰により顧客との交渉でなかなか折り合いがつかないため、売上に繋がらず現状維持にとどまっている。新規開拓が他社との競争があり中々進まない状態。（総合工事） ・実感としては依然として経済は持ち直しているとはいい難く、今後の業績回復に向けて政府に対し、的確かつ効果的な政策の実行に強く期待している。又、人材の確保が難しい状況が続いており、工事の受注があっても施工体制が追いつかないという課題に直面している。（設備・その他） ・大工不足による施工工程のずれ込みが深刻である。流動的な案件を多く抱え、下期の施行スケジュールが立たない状況である。早期の契約クロージングが今後の課題である。（建築業）
製造業	・農作物生産において 11 月まで繁忙期となり、需要と供給が間に合わないこともあって、従業員不足が課題となっている。いくつかの手段で従業員確保に努めているところである。（食料品） ・設備投資（デジタル化）を行い経費削除（材料）になり、ここ 4 ヶ月順調で売上が落としている中、少しではあるが利益が出ている。この先決算月までの結果を踏まえ毎月の推移を見ていきたいと思う。（印刷・出版） ・受注単価下落と先の見通しですが話はあるが、概算が多く決定がない。（金属窯業他） ・全国的に消費が落ち込んでいる。特にインテリア、家具関係は厳しい。（家具・木材）
卸売業	・季節商品を取り扱っている関係で、また法改正があったことでこの夏の熱中症対策商品は売れ行きが好調だった。一方で 10 月まで暑いとの長期予報があるので防寒商戦はかなり厳しくなるのではないかと思われる。（繊維・衣服等） ・物価の値上がりに伴う、買い控えによる売上減少を痛感。（食料品） ・当月の業況は、前年同期に比べ売上はやや増加。8 月いっぱいまでは商品の動きが鈍るなど低調な展開が予想されるも、年後半に向けて実需及び来年以降の予約販売の伸長が見込まれ、業況の特段の懸念はないものとみている。（その他）
小売業	・7 月は例年通りサマーセールの期間となっているが、ネットでは一年を通してセール状態で来店客がぱったり止まってしまった。売上が大変厳しい。顧客に SNS で商品の情報を発信し、来店を促していき売上を確保したい。（衣服身回品） ・焙煎豆の供給体制が安定し、販売数と売上ともに増加傾向。隣町、富良野のラベンダー観光によるインバウンド需要が寄与し、特にモーニング帯は連日混雑している。一方で午後以降の地元客の利用は伸び悩み、時間帯によっては店内が閑散としており、客層の偏りが課題となっている。（食料品） ・新車の販売が好調で売上は前年を上回る見込みだが、中古車の売れ行きが伸び悩んでおり、前年よりも人件費が増加している影響もあり、採算は前年より少し悪化すると予想している。（自動車） ・原材料の高騰分の転嫁が遅れているため採算性が低下。（その他）
サービス業	・観光シーズンに突入はしたが、そこまで入館数が増えた感じはない。仕入れコスト人件費は相変わらず高止まりしているので、しっかり見極めて利益を追求していきたいと思う。（理美容・クリーニング） ・外部要因をビジネス顧客層、観光需要でカバーし、連日高稼働であり、単価を上げられているため好転となっている。現在の状況はコスト高を売上でカバーできている。人件費増などにより最終利益は思ったほど伸びず。（ホテル・旅館） ・原材料費の上昇、エネルギー価格の上昇、労務費の上昇分をインバウンド価格に乗じて販売価格への上乗せをお願いする予定だが、そろそろインバウンド需要を価格上昇の理由にしづらくなりつつある。（その他） ・近年の気温上昇に伴い、屋外作業が過酷化しており現場作業員の労働効率が低下している。これにより作業時間の延長や人員確保の難しさが課題となっている。（その他） ・夏期の観光需要に十分対応できる人材確保ができておらず、厳しい運用が続くが足元の収益体質は好転しつつある。資金難で進んでいない設備投資をどう進めるかは課題。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	売上 DI9.6 ポイント悪化、採算 DI1.4 ポイント改善、仕入単価 DI12.5 ポイント悪化、販売単価 DI8.3 ポイント改善、資金 DI2.7 ポイント悪化、従業員 DI6.6 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 9.0 ポイント悪化となった。業種別では、総合工事横ばい、設備・その他 5 ポイント、建築業 29 ポイント悪化となった。仕入れ材高騰、賃金上昇、人手不足等の影響が大きく、販売価格の上昇を見込めても採算向上迄には至っていないとの声も寄せられている。
製造業	売上 DI6.6 ポイント悪化、採算 DI10.0 ポイント悪化、仕入単価 DI13.4 ポイント改善、販売単価 DI3.3 ポイント悪化、資金 DI6.6 ポイント悪化、従業員 DI3.4 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 13.4 ポイント悪化となった。業種別では、家具・木材 15 ポイント改善、食料品 17 ポイント、印刷・出版 20 ポイント、金属窯業他 30 ポイント悪化となった。新商品が大好評につき今月の新商品の印象が薄まり、毎日の暑さで客足が遠のいているように思われる。今期は FC ブランド 55 周年で今後も新商品が続々投入されるので暑さが収まる反比例に売上が期待されるとの声も寄せられている。
卸売業	売上 DI9.3 ポイント悪化、採算 DI5.7 ポイント悪化、仕入単価 DI3.2 ポイント悪化、販売単価 DI3.6 ポイント改善、資金 DI5.1 ポイント悪化、従業員 DI10.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 8.3 ポイント悪化となった。業種別では、その他 10 ポイント改善、繊維・衣服等横ばい、食料品 3 ポイント、機械鋼材 43 ポイント悪化となった。灯油の仕入価格は小幅に上下を繰り返しており、政府の補助金が 5 円程入っているため、補助金が終了した場合は 5 円程値上げとなるとの声も寄せられている。
小売業	売上 DI2.3 ポイント悪化、採算 DI9.4 ポイント改善、仕入単価 DI0.6 ポイント改善、販売単価 DI13.3 ポイント悪化、資金 DI7.8 ポイント改善、従業員 DI2.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 3.9 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、衣料品、食料品横ばい、その他 7 ポイント、自動車 20 ポイント改善となった。仕入れ価格の高止まりが続いている状況で、販売価格が高くなり売りづらくなっているとの声も寄せられている。
サービス業	売上 DI20.8 ポイント悪化、採算 DI16.6 ポイント悪化、仕入単価 DI8.4 ポイント悪化、販売単価 DI12.5 ポイント悪化、資金 DI4.2 ポイント改善、従業員 DI8.3 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、ホテル・旅館 14 ポイント、飲食 33 ポイント、運送 58 ポイント改善、理美容・クリーニング横ばい、その他 40 ポイント、整備業 50 ポイント悪化となった。売り上げは好転しているが、人件費増などにより最終利益は思ったほど伸びずとの声も寄せられている。